

No.660 (改題620号)
2025年
2月12日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

25年を希望と前進の年に
参院選へ決意固める旗開き

新社会党
兵庫県本部

新社会党兵庫本部(栗原富夫委員長)は2025年の「新春の集い」(旗開き)を1月25日、「新春講演会」として神戸市内で開き、石河康国・元新社会党副書記長の講演に学ぶとともに、夏の参院選やそれに先立つ6月の尼崎市議選での勝利をめざす決意を固めた。



石河康国・元新社会党副書記長の講演をメインに開かれた新社会党兵庫本部の新春の集い(旗開き)=1月25日、神戸市長田区



マイナ保険証の問題を落語で訴えた都亭アロハさん=1月25日

司会の岡崎彩子県本部書記長の開会あいさつで始まった「新春の集い」の冒頭、栗原委員長がいさつに立ち、不安定さや混迷の度が増す国内外の情勢にふれながら、

岡崎宏美・新社会党中央本部委員長から激励を受けたあと、各政党代表として、立憲民主党県連・井坂信彦代表(衆議院議員)、日本共産党県委員・村上亮三副委員長、緑の党グリーンズジャパン兵庫本部・丸尾牧共代表(県会議員)からそれぞれ平和や民主主義、国民の暮らしの安定のために自公権腐敗政治の打倒をめざして共に闘おうとの連帯のあいさつを受けた(社民党県連からはメッセジ)。

さん(党水支部所属の菊地真千子さん)による落語。マイナ保険証をめぐるトラブルをネタに、国民に押しつけられているマイナ保険証の問題点を自作の落語でもしっておかし訴え、会場を沸かせた。

メインの講演では、石河さんは、戦後歴史の画期を振り返りつつ今日の日本の政治情勢の特徴について、9条明文改憲は先延ばしにはなったものの戦争準備には歯止めはかからず護憲勢力は戦後最少になったと指摘。一方で、戦争の現実から「抑止力」の非現実性は逆に明らかになっているとして、「非武装・中立」の復権は可能だと強調。直ちに変わらなくても、小さいながらも確実な勢力をきちんと形成していくことの大切さを訴えた。

災害時の石綿対策を考える

神戸でシンポジウム開く 1.12

阪神・淡路大震災から30年にあたり、「災害とアスベストを考えるシンポジウム」が1月12日、神戸市内で開かれ、アスベスト問題に関心を持つ約150人が参加した。主催したのは、NPO法人ひょうご労働安全衛生センターなどこれまで災害アスベスト問題に取り組んできた団体や研究者、弁護士らが1昨年12月に発足を発表し、昨年1月から活動を開始してきた「災害とアスベスト」プロジェクト。この1年間、①阪神・淡路大震災時ににおけるアスベスト飛散の再検証、②ボランティアの活動実態とアスベストに対する意識調査、③復旧・復興作業に従事した人々の労働実態、④今後の地震や自然災害時のアスベスト対策などを課題にして調査・研究を行ってきたおり、それらを記録に残す作業にも取り組んできた。



約150人が参加し8人の研究者らからの報告を聞いた=1月12日、神戸市中央区

ひょうご(158)
描き、歩き



亀山本徳寺

(姫路市亀山)

山陽電鉄亀山駅の東側の線路沿いにおよそ150m四方の広い敷地を持つ運上人を開基とする浄土真宗の別格寺院「亀山本徳寺」がある。戦時中まで現「亀山駅」は「亀山御坊」であり、周囲にも10ほどの寺が集まり、すぐ東を飾磨街道が南北に通る、飾磨津から姫路城飾磨門まで約4kmの計画道路が通る。

ここより少し西、英賀に英賀本徳寺があったが、信長・秀吉に破壊され、この亀山に移築された。スケッチの大門から入ると正面に着物の裾を広げたような緩やかな曲線の大屋根の本堂があり、渡り廊下で表書院に繋がる。この本堂は、火災で焼失した後、京都西

本願寺の北集会所の建物を移築したもので、そのためにこの本堂の柱には、新撰組が壬生から移って屯所として一時使用していた当時の刀傷が残っている。そんなこともあってかNHKの大河ドラマ「新撰組」のロケにも使用された。姫路は国内有数のロケ地で、「乱」影武者「大奥」で姫路城、「ラストサムライ」「武蔵」で書写山円教寺など、時代劇でよく使われる。姫路と鳥取を結ぶ国道29号を辿る最近作「ルート29」では今の姫路の街も

境内には大玄関や太鼓楼等、文化財も多い。毎月第4日曜日には築市楽座が開かれ、フリーマーケットや骨董市などで賑わう。(嶋合)



阪神・淡路大震災の二次被害であるアスベスト

多くの災害現場でアスベストに対する注意喚起や防じんマスクの支給などの対策が不十分であったこと、そして今後もなお不十分であることがこの間の調査からも改めて浮かび上がっている。

震災の犠牲者を追悼する黙とうから始まったシンポジウムは、「検証」阪神・淡路大震災とアスベスト」と題した第一部

と、「語り継ぐ震災とアスベスト」とした第二部で構成され、医師や研究者をはじめ、自身がアスベスト被曝で悪性胸腺中皮腫を発症した労働者や調査活動に取り組んだ学生らが次々と発言に立ち、この間の調査・検証結果を発表した。

多くの災害現場でアスベストに対する注意喚起や防じんマスクの支給などの対策が不十分であったこと、そして今後もなお不十分であることがこの間の調査からも改めて浮かび上がっている。

水脈

阪神・淡路大震災から30年。倒壊した住宅、燃える街、避難所への炊き出しなど、残っていた当時の写真を見せ、地震の力の大きさと被害の惨状を伝える。地震は自然現象で、止められない。自然災害の被災者支援を目的とした「被災者生活再建支援法」は阪神・淡路大震災をきっかけにできた法律である。震災後の1996年9月に被災者支援策を政府に要求して署名活動が始まった。私有財産に公費は投じられないという政府の考え方に對し、全国で2400万筆の署名を集め、被災地から国会行動を繰り返し、1998年、市民と議員が力を合わせた結果、成立した。だが、阪神・淡路の被災者には適用されず、義援金と復興基金が支援に使われた。2011年、東日本大震災では恐れていた福島第一原発事故が起きた。元の場所に住めなくなった長期避難者への適用はなぜ認められず「自然災害」で論争。当時の民主党政権は東京電力に損害賠償の責任があると答えている。爆発は地震が原因にもかかわらず▼石橋克彦・神大名誉教授は30年の集いで南海トラフ巨大地震・原発震災に触れ「自然災害と共存せざるをえない人類は『過剰文明』からの脱却と節度ある人間活動を説いた。

神戸市中央区海岸通に市会決議が刻まれた「非核『神戸方式』の碑」が市民によって建てられている



「非核『神戸方式』の碑」は、1974年の米議会でのラロック証言を契機に、市民や労働者の運動が起り、神戸市会が平田辰男議員（日本社会党）が「将来核武装をしている疑いのある米艦船の入港という状態が生まれたらどうするか」と質問したことに対し、当時の宮崎市長は「核艦

船の入港を拒否する」と答弁。これを受けて全会一致で決議がされた。その後、神戸港に入港する米艦船の神戸港入港拒否に関する決議が、神戸市会が「非核神戸方式」として採用し、港の管理・運営権を持つ神戸市が、市会決議（市民の総意）にもとづき行政指導として運用しているもの。その後、アメリカによる非核神戸方式の動きや有事法成立などがあつたが、市長への質問のたびに、歴代の市長は「非核神戸方式は堅持する」と答弁してきている。

いま、日本における基地強化や特定港湾・空域の民間活用による民間港湾の軍事利用という軍事拡大の情勢の中で、自治体の非核化による軍事利用の拒否は改めて重要になっている。

そこで、日本で初めて港の非核化を実現した「非核神戸方式」の開始から50周年を迎えたのを記念し、今こそ「非核神戸方式」を全国へ広げよう、と、非核神戸方式がどのように全国に広がり、いまだどのような課題があるのか、全国の各地域をつないで意見交換を行い、「非核神戸方式」について考える全国の集いが3月15日、神戸市で開催される（開催要項は別記）。

実行委員会では、集いを成功させようと兵庫県内はもとより全国に発信する取り組みを行っており、集いへの協力・団体賛同（賛同金1口3千円以上）と、参加を呼びかけている。

### 呼びかけ

## 非核神戸方式50周年記念

### ワークショップ非核条例を考える全国の集い 非核神戸方式を今こそ全国へ

- 3月15日(土)13:40~16:30
- 神戸市教育会館・大ホール  
(JR元町駅・東口から徒歩10分)

今年、いわゆる「非核神戸方式」、「核兵器積載艦船の神戸港入港拒否に関する決議」が神戸市会が採択されたから50年という節目の年だ。1975年3月18日、同決議は可決された。戦後、神戸港が米軍に接収され、1974年に全面返還されるまでは、ベトナム戦争では兵器の運搬、米兵遺体の保存場所や運搬施設として使用され、米軍がやりたい放題で使っていた。

しかし、「日本に寄港する艦船は核兵器を外さない」という1974年の米議会でのラロック証言を契機に、市民や労働者の運動が起り、神戸市会が平田辰男議員（日本社会党）が「将来核武装をしている疑いのある米艦船の入港という状態が生まれたらどうするか」と質問したことに対し、当時の宮崎市長は「核艦

船の入港を拒否する」と答弁。これを受けて全会一致で決議がされた。その後、神戸港に入港する米艦船の神戸港入港拒否に関する決議が、神戸市会が「非核神戸方式」として採用し、港の管理・運営権を持つ神戸市が、市会決議（市民の総意）にもとづき行政指導として運用しているもの。その後、アメリカによる非核神戸方式の動きや有事法成立などがあつたが、市長への質問のたびに、歴代の市長は「非核神戸方式は堅持する」と答弁してきている。

そこで、日本で初めて港の非核化を実現した「非核神戸方式」の開始から50周年を迎えたのを記念し、今こそ「非核神戸方式」を全国へ広げよう、と、非核神戸方式がどのように全国に広がり、いまだどのような課題があるのか、全国の各地域をつないで意見交換を行い、「非核神戸方式」について考える全国の集いが3月15日、神戸市で開催される（開催要項は別記）。

実行委員会では、集いを成功させようと兵庫県内はもとより全国に発信する取り組みを行っており、集いへの協力・団体賛同（賛同金1口3千円以上）と、参加を呼びかけている。

## 阪神・淡路大震災から30年

### “追悼・連帯・抗議”の街頭行動

あわはら富夫神戸市議らがマイクアピール



大震災から30年の節目で開催を終えるこの追悼・連帯・抗議のスタディング=1月17日、神戸市役所前

1月17日、6434人が犠牲になった阪神・淡路大震災から30年を迎えた。被災地ではさまざまな追悼行事が行われ、神戸市中央区の東遊園地で「1・17のつどい」が開かれ、30年という節目の年でもあり例年以上に多くの人が参加した。こうした行事の傍らで、「震災弱者」を置き去りにするよう神戸市の復興行政を経験し、批判してきた市民運動にかかわる人々が17日昼、神戸市役所前で「追悼・連帯・抗議」のスタンディング行動を行った。

この日、あわはら富夫神戸市議がまずマイクを握り、震災当時の被災地や被災者の運動を振り返り、被災者自身が立ち上がり国会議員と共に成立させた被災者生活再建支援法の意義について触れ、出発時には改善はされ

たものの、その後の自然災害の表情からはさらなる拡充が求められていることを強く訴えた。その後は、小林のみ子元神戸市議をはじめ、被災地・被災者の運動に関わってきた人々が次々とマイクを握り、思いを訴えた。

そして、震災から30年という節目をもって、このスタンディング行動も終わりとするのを確認して散会した。

「非核神戸方式50周年記念ワークショップ非核条例を考える全国の集い」は、3月15日(土)13:40~16:30、神戸市教育会館・大ホールで開催。参加費・会場参加、ZOOM参加とも500円以内。

基調講演「非核神戸方式を振り返り、今こそ全国へ」は、浜恵介氏（立教大学兼任講師）、新倉裕史氏（ヨコスカ平和船団）が担当。特別報告①は、あわはら富夫氏（神戸市会議員）が担当。特別報告②は、山崎秀一氏（元自治労高知県職労委員長）と藤井幸子氏（平和憲法を守る八重山連絡協議会）が担当。

質疑応答、意見交換は、主催・非核条例を考える全国の集い実行委員会共催。憲法を生かす会・ひょうごネット【問い合わせ先】現地神戸/中村 nspkobe@portnet.ne.jp ZOOM参加の場合 ミーティングID番号: 823 891 3388 パスコード: 8516688 賛同金、ZOOM参加費の振り込み先 ゆうちょ銀行 口座名義/ハマケイスケ 口座番号/15160067590001

た。被災地ではさまざまな追悼行事が行われ、神戸市中央区の東遊園地で「1・17のつどい」が開かれ、30年という節目の年でもあり例年以上に多くの人が参加した。こうした行事の傍らで、「震災弱者」を置き去りにするよう神戸市の復興行政を経験し、批判してきた市民運動にかかわる人々が17日昼、神戸市役所前で「追悼・連帯・抗議」のスタンディング行動を行った。

この日、あわはら富夫神戸市議がまずマイクを握り、震災当時の被災地や被災者の運動を振り返り、被災者自身が立ち上がり国会議員と共に成立させた被災者生活再建支援法の意義について触れ、出発時には改善はされ

たものの、その後の自然災害の表情からはさらなる拡充が求められていることを強く訴えた。その後は、小林のみ子元神戸市議をはじめ、被災地・被災者の運動に関わってきた人々が次々とマイクを握り、思いを訴えた。

そして、震災から30年という節目をもって、このスタンディング行動も終わりとするのを確認して散会した。

「非核神戸方式50周年記念ワークショップ非核条例を考える全国の集い」は、3月15日(土)13:40~16:30、神戸市教育会館・大ホールで開催。参加費・会場参加、ZOOM参加とも500円以内。

基調講演「非核神戸方式を振り返り、今こそ全国へ」は、浜恵介氏（立教大学兼任講師）、新倉裕史氏（ヨコスカ平和船団）が担当。特別報告①は、あわはら富夫氏（神戸市会議員）が担当。特別報告②は、山崎秀一氏（元自治労高知県職労委員長）と藤井幸子氏（平和憲法を守る八重山連絡協議会）が担当。

質疑応答、意見交換は、主催・非核条例を考える全国の集い実行委員会共催。憲法を生かす会・ひょうごネット【問い合わせ先】現地神戸/中村 nspkobe@portnet.ne.jp ZOOM参加の場合 ミーティングID番号: 823 891 3388 パスコード: 8516688 賛同金、ZOOM参加費の振り込み先 ゆうちょ銀行 口座名義/ハマケイスケ 口座番号/15160067590001

た。被災地ではさまざまな追悼行事が行われ、神戸市中央区の東遊園地で「1・17のつどい」が開かれ、30年という節目の年でもあり例年以上に多くの人が参加した。こうした行事の傍らで、「震災弱者」を置き去りにするよう神戸市の復興行政を経験し、批判してきた市民運動にかかわる人々が17日昼、神戸市役所前で「追悼・連帯・抗議」のスタンディング行動を行った。

## 改憲の動きをウォッチング

軍事基地と沖縄 軍事力の強化に突き進む自公政権にストップをかけねばならない 「南西諸島を要塞化する自衛隊の南西シフトは今年、敵基地攻撃能力（反撃能力）を備えたミサイルの配備へと段階が上がる。民意を無視して進められる辺野古新基地建設は、大浦湾に広がる軟弱地盤の改良工事が本格的化する。米軍と自衛隊の訓練演習もさらに激しくなるだろう」

「琉球新報」を前提にした戦争準備をこれ以上許せば、沖縄は80年前と同じ戦場になってしまう。沖縄に一層の負担と犠牲を強いて防衛力の抜本的強化に突き進む政府の強硬姿勢を、何としても改めさせなければならない」 「押しつけられる国策に沈黙してはいけない。現在を『新しい戦前』にしないという決意を掲げなければならない」 引用が少々長くなったが、この国の民主主義が新年早々の「琉球新報」の社説である。

1・講習室①講義「T・ピケティ『資本とイデオロギー』を読み解く」岩佐卓也さん（専修大学教授）◎参加費500円◎動物園ホール ■2025兵庫たたかう仲間集い未来を築く 働き方と賃上げを、 ◎3月8日(土)13時30分◎神戸市・中央区文化センター・多目的ホール ◎闘争報告と記念講演 ◎主催|集い実行委員会 ◎集会后デモ行進

「軍事基地と沖縄 軍事力の強化に突き進む自公政権にストップをかけねばならない」 「南西諸島を要塞化する自衛隊の南西シフトは今年、敵基地攻撃能力（反撃能力）を備えたミサイルの配備へと段階が上がる。民意を無視して進められる辺野古新基地建設は、大浦湾に広がる軟弱地盤の改良工事が本格的化する。米軍と自衛隊の訓練演習もさらに激しくなるだろう」 「『台湾有事』を前提にした戦争準備をこれ以上許せば、沖縄は80年前と同じ戦場になってしまう。沖縄に一層の負担と犠牲を強いて防衛力の抜本的強化に突き進む政府の強硬姿勢を、何としても改めさせなければならない」 「押しつけられる国策に沈黙してはいけない。現在を『新しい戦前』にしないという決意を掲げなければならない」 引用が少々長くなったが、この国の民主主義が新年早々の「琉球新報」の社説である。

# 結成から10年 更なる発展へ議論

## 市民デモHYOGOが交流会

「こわすな憲法!」のちとくらし!市民デモHYOGO」の前身である「アベ政治を許さない!市民デモKOBÉ」の結成から10年を迎える節目に当たり、さらなる飛躍・発展にむけた展望を議論し交流する場として、「市民デモHYOGO」は1月12日、神戸市内で「2025新年交流会」



約50人が参加して「市民デモHYOGO」の今後について熱心に討論した=1月12日、神戸市

を開催し、約50人が参加した。交流会の冒頭、毎週木曜日のマルイ前行動に欠かさず参加し、横断幕やシール投票板などを制作するなど大きな貢献をしてきた井上さんへの黙祷が行われ、その後、昨年春の交流会以降の経過報告が行われた。

選挙に異議あり!真相解明県民集会」には会場だけで約500人が参加し、会場に入り切れなかった人も含め1600人、1800人が参加したと見られるが、「予想を上回る未経験の事態で、集会運営などで反省する点は多くあったが、斎藤知事が当選しても、なお異議がある人が多いことを示せた集会だった」と総括し、今後も引き続きこの問題に取り組み、2月議会に予定される百条委員会の報告書提出に向けて取り組みを進めていくことが確認された。

# 地域ユニオン

## あちこちあれこれ

446

昨年11月、滋賀にある半導体関連部品を製造するS社に派遣されているペルー人労働者から相談

# 派遣のペルー人労働者達のたたかい

が寄せられた。15年以上も同じ会社で働いているのに、有給休暇はなし、社会保険なし、雇用保険なし、ボーナスなし、深夜割増もない、という事だ。5年前までは法定休日もなかったとの訴えもあった。

派遣元会社(屋号を持つ個人だった)に組合結成を通知と要求書を提出した。組合員に連絡し、すぐに滋賀労働局に出向き、労働者派遣法に基づく「みなし雇用制度」の申請を行った。派遣元は、

組合員に連絡し、すぐに滋賀労働局に出向き、労働者派遣法に基づく「みなし雇用制度」の申請を行った。派遣元は、

「無期雇用とし、時給はこれまでどおり1600円、社会保険や有給休暇は法律どおり」と回答したが、ボーナスを含む諸手当については、「な

いこのことだった。理由は他の正社員より賃金が高く、諸手当やボーナスを出すのであれば賃金は下がるという。就業規則上、組合員は正社員ではないのか?ないのか?という疑問は、派遣元に対しては、まったく使えなかった有給休暇の保障や社会保険未加入に対する補償などを求めて、引き続き交渉を求めている。

また、派遣元に対しては、まったく使えなかった有給休暇の保障や社会保険未加入に対する補償などを求めて、引き続き交渉を求めている。

# 参院選へ活動本格化 党総支部段階でも旗開き

2025年は、新社会党にとってはいよいよ正康さん(新社会党市民運動委員長)を7月の参院選で社民党の比例区(社民党推薦として名簿登載)から擁立してたたかうきわめて重要な年だ。各級機関でまさに党の命運がかかる選挙と位置づけ、その準備を進めている。



そうした年の本格的な活動の出发点として、県本部の「旗開き」である「新春の集い」(一面記事)だけで

なく、地域の組織である総支部段階でも新年の決意を固めよう「旗開き」が開かれた。1月26日は灘総支部で(写真上)、1月30日には芦屋総支部で(写真下)。総支部委員長のあいさつなどののち、

「旗開き」を辞書で調べてみると、「革新系の政党や労働組合で、党旗・組合旗を飾って新年の決意を表明する会」とあった。

軸テーマも多様化する中、市民デモHYOGOの共通理念として、「既存グループのネットワークから「市民に開かれたフラットホーム」へとシフトしながら、同じテーマを取り組むグループ同士の交流を活発化することなどが提案され、参加者全員で確認した。

また、「私たちがどこから来て、どこへ行くのか」21世紀の市民運動の回顧と展望」と題した山本昭宏さん(神戸外大准教授)による講演もあり、21世紀の市民運動が抱える問題を克服する方向も提示された。(中村)

3月9日(日)14時〜15時45分/集会後にデモを予定◎神戸市立婦人会館・5階「さくら」◎講

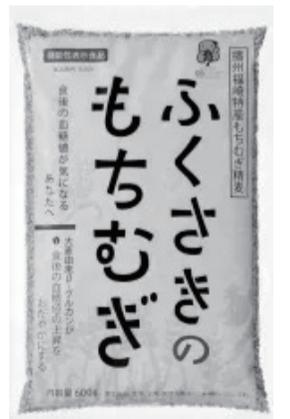
演「地震と原発―私が原発をとめた理由」樋口英明さん(元裁判官)◎報告・菅野みずえさん(福島原発事故避難者)◎参加費1000円◎主催II 脱原発兵庫ネットワーク(連絡先電話090・9899・7129 (菅野))

# よく噛んで食べる習慣をつけましょう



よく噛んで食べることで、食材本来の味を感じることができます。それだけでなく、あごを開けたり閉じたりするので顔などの骨や筋肉が動き、血流が増加し脳に酸素と栄養が送られ、脳細胞の働きが活発になります。高齢者では認知症の予防にもなると言われています。あごや口のまわりの筋肉を動かすことは、表情を豊かにしたり、きれいな発音で話すことにもつながります。周囲の人との会話もはずみます。柔らかい食材ばかりでなく、しっかり噛むと美味しい食材をプラスすることで、習慣化しませんか。

播州福崎町産のもち麦は、大麦の一種で、一般的な小麦に比べて高タンパク・高ミネラルで、ベータグルカンと呼ばれる食物繊維を多く含んでいます。コレステロールを下げる働きがあるといわれており、いま最も注目されている栄養素の一つです。白米に混ぜて炊くだけで他の麦には無い独特のプチプチした食感をお楽しみいただけます。



福崎町産100% 600g 700円

## 毎月のお米 いずれもコシヒカリ

● でかんしょ米 (小多田屋米穀店)  
5kg 3,300円 / 3kg 1,980円

● ささや米 (耕しや)  
白米 5kg 3,100円  
玄米 5kg 2,950円

(有)ぴいふる  
電話/ファックス 078(531)0135



